

授業概要

分野	基礎分野	科目名	哲学	担当講師	長澤 麻子
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

科目設定のねらい

看護を専門職とするとき、「看護とは何か」という問い合わせを各自で深めていくことが求められます。この問い合わせの根本は、看護する者も看護される者も同じ人間であり、その人間は心と体を備えた限られる生命であるという認識です。哲学は、人間にに対する根本的な認識から看護を考えるための学問です。

この授業では、人間のあり方、生病老死や人間の基本的な価値観についての哲学的な考え方を学び、深い洞察力を持って看護に臨めるようになるための基礎を身につけます。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. 看護における哲学的テーマについて考える	1)現代の医療・看護と哲学のつながり 2)思索することと看護	(1)人間に向きあう医療・看護 ・現代社会の不安・病理と医療 (2)看護の本質を哲学的に捉える ・哲学と看護における「みること」 ・人間らしさを追求する	講義
6	2. 哲学の歴史を学び、人間存在について理解する	1)西洋哲学における人間理解	(1)古代、中世、近現代の哲学 ・人間の基本的価値観としての古代ギリシャの「真・善・美」 ・中世キリスト教の「人間の尊厳」 ・近现代社会における人間の本質への問い	講義
4	3. 個人の価値観、道徳観、倫理観はどのように形成されるかを理解する	1)価値観の形成と人間の発達	(1)道徳観・倫理観の発達過程 ・コールバーグの道徳性発達段階 ・ギリガンのケアの倫理 (2)価値観の形成 ・虚偽について	講義 グループワーク
2	4. 人間における死の問題とターミナルケアについて理解する	1)人間は死すべき存在である	(1)死に向き合うことの意味 ・痛みについて (2)より深く思索すること ・愛について	講義
1	試験			
テキスト	田畠邦治・田中美恵子編集 哲学－看護と人間に向かう哲学 ヌーヴェルヒロカワ社			
参考文献	授業時に適宜プリント配布			
評価方法	筆記試験 100点			

### 授業概要

分野	基礎分野	科目名	生活の中の芸術	担当講師	永澤 永信 他
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

#### 科目設定のねらい

芸術文化は地域性と密接な関係を持っている。但馬地域で長い時間をかけて創られてきた芸術に親しむことで、地域を知ることにつながり、さらには地域に住まう患者・療養者・家族の生活に思いをはせ、年代を超えた交流につながるものと考える。また、芸術作品を鑑賞し、味わい、作品に込められた思いを知ることで、人としての豊かな感性を育むことをねらいとする。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
1 作 品 に つ き 2 時 間  ( 回 )	1. 美術工芸品を鑑賞し、作品がもつ「美」を味わうことができる  2. 楽器の音色や奏法、曲想の変化、などを楽しみながら、音楽の多様性を理解する  3. 地域の風土・歴史・文化などを背景に暮らしの中から生まれた芸術を理解する	美術工芸品・書・音楽の「美」 1) 伝統陶芸の「美」 2) 自然なものが創りなす「美」 3) 金属とクリスタルと火が創りだす「美」  1) 楽器の表現・歌唱を楽しむ  1) 地元伝統工芸 -麦わら細工 2) 引き継がれている伝統文化 3) 但馬地域の風土・歴史・文化と暮らし	1-講話と鑑賞 (1) 出石焼の鑑賞 (2) 絵画の鑑賞 (3) 七宝焼きの鑑賞と体験  2-講和と演奏 (1) マリンバ演奏を楽しむ  3-講和と体験、鑑賞 但馬地域の風土と歴史 (1) 麦わら細工の鑑賞 (2) 杞柳細工の鑑賞 (3) 木彫の鑑賞	講話 一部実演 一部実施
1	レポート			
テキスト	授業ごとに講師が準備する			
参考文献				
評価方法	出席、授業態度、レポート			

### 授業概要

分野	基礎分野	科目名	運動と健康	担当講師	西村 正広
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

#### 科目設定のねらい

「人間と生活、社会を理解」する科目として本科目を設定した。

健康の担い手として自らの健康管理ができるように生活活動と健康の成り立ちを学び、さらに健康の保持・増進に向けた取り組みに対応できるためにリーダー的役割が果たせるよう基本的な知識・方法を学ぶ。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. 現代における健康阻害要因と健康意識の高まりが理解できる。	1) 健康の概念と運動	(1) 現代社会における健康意識 (2) 現代社会と運動不足病 (3) 生活習慣と運動	講義
2	2. 運動の効用が理解できる。	2) 運動の効用	(1) 体力と運動機能に対する効果 (2) 予防医学上の効果	講義
4	3. 運動処方の原理が理解できる	3) 運動処方の原理	(1) 運動処方とは (2) 運動負荷検査までの手順の実際 (3) 運動処方の手順 (4) 検査結果による個別指導の実際 (5) 高齢者の体力特性	講義 演習
4	4. 運動プログラムの組み立ての原則が理解できる	4) 運動プログラムの組み立て	(1) 必要運動量とその算定 (2) 運動量の算定 (3) 運動強度の表し方 (4) 運動中のエネルギー産生とエアロビクス (5) 運動種目の選び方 (6) 運動プログラムの作り方	講義 演習
2	5. 自分の健康について振り返り、健康生活に向けた課題が明らかになる	5) 生活処方とウェルネス	(1) ライフスタイルの点検 (2) 生活習慣病とウェルネス (3) 高齢者のウェルネス	
1	試験			
テキスト	講師資料			
参考文献	「健康づくりのための運動指針 2006 (エクササイズガイド 2006)」「健康づくりのための運動基準 2006」及び「健康づくりのための身体活動指針 (アクティブガイド)」「健康づくりのための身体活動基準 2013」(厚生労働省)			
評価方法	筆記試験・レポート			